

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成29年10月12日 (2017.10.12)

【公表番号】特表2014-508121 (P2014-508121A)

【公表日】平成26年4月3日 (2014.4.3)

【年通号数】公開・登録公報2014-017

【出願番号】特願2013-545436 (P2013-545436)

【国際特許分類】

C 0 7 C	15/46	(2006.01)
C 0 7 C	47/02	(2006.01)
C 0 7 C	45/34	(2006.01)
C 0 7 C	47/21	(2006.01)
C 0 7 C	47/19	(2006.01)
C 0 7 C	47/11	(2006.01)
C 0 7 C	47/277	(2006.01)
C 0 7 C	47/445	(2006.01)
C 0 7 C	47/54	(2006.01)
C 0 7 C	47/115	(2006.01)
C 0 7 C	47/232	(2006.01)
C 0 7 C	47/575	(2006.01)
C 0 7 C	49/21	(2006.01)
C 0 7 C	49/215	(2006.01)
C 0 7 C	49/245	(2006.01)
C 0 7 C	49/78	(2006.01)
C 0 7 C	49/395	(2006.01)
C 0 7 C	47/58	(2006.01)
C 0 7 C	47/542	(2006.01)
C 0 7 C	15/58	(2006.01)
C 0 7 C	39/18	(2006.01)
C 0 7 C	43/166	(2006.01)
C 0 7 C	43/215	(2006.01)
C 0 7 C	43/23	(2006.01)
C 1 1 B	9/00	(2006.01)
C 0 7 D	317/54	(2006.01)
C 0 7 D	317/50	(2006.01)

【 F I 】

C 0 7 C	15/46	
C 0 7 C	47/02	C S P
C 0 7 C	45/34	
C 0 7 C	47/21	
C 0 7 C	47/19	
C 0 7 C	47/11	
C 0 7 C	47/277	
C 0 7 C	47/445	
C 0 7 C	47/54	
C 0 7 C	47/115	
C 0 7 C	47/232	
C 0 7 C	47/575	
C 0 7 C	49/21	

C 0 7 C	49/215	
C 0 7 C	49/245	
C 0 7 C	49/78	
C 0 7 C	49/395	
C 0 7 C	47/58	
C 0 7 C	47/542	
C 0 7 C	15/58	
C 0 7 C	39/18	
C 0 7 C	43/166	
C 0 7 C	43/215	
C 0 7 C	43/23	C
C 1 1 B	9/00	J
C 1 1 B	9/00	L
C 0 7 D	317/54	
C 0 7 D	317/50	

【誤訳訂正書】

【提出日】平成29年8月21日(2017.8.21)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 1 2 8

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 1 2 8】

例 2 5 : 液体洗剤における適用

非フレグランス強力液体洗剤基材 (pH 8.4) に、0.1% wt/wt の、式 (I) で表される化合物または対応する自由な状態のフレグランスである (free fragrant) アルデヒド/ケトンのいずれかを添加し、嗅覚的に純粋である (olfactively pure available) ときに、対応するカルボニル化合物と一緒にした。この基材 (34 g) のサンプルを、標準フロントローディングヨーロッパ式洗濯機中で、5枚のコットンテリートオル (乾燥重量各約 200 g、投入合計約 1 kg) 投入物を洗濯に使用した。洗濯サイクルを、40で行い、その後2回の冷リンスサイクルおよび1000 rpmで高速回転を行った。洗濯したタオルを、T0 (湿潤、特に明記しない限り) でおおよび室温での24hライン乾燥後に、フレグランス強度について、熟練した評価者のパネルによりブラインド評価した。強度を、以下の基準により示した: 0 (無臭)、1 (極めて弱い)、2 (弱い)、3 (中間)、4 (強い)、5 (極めて強い)。結果を、以下の表 2 に示す。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 1 2 9

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 1 2 9】

表 2 : 自由な状態のフレグランスおよび該フレグランスを放出する前駆体のフレグランス強度

【表 2】

成分:	自由な状態のフレグランス 前駆体	T ₀ での 平均強度	24 時間後の 平均強度
	エチルバニリン	1.3	0.6
	前駆体 例 3	3.4	2.3
	ノナジエナール	1.3	1.4
	前駆体 例 2.12	3.8	3.4
	オレンジークリスト	3.1	1.2
	前駆体 例 6.3	2.8	2.4
	trans-4-デカナール	2.2	0.7
	前駆体 例 8.1	3.0	2.6
	エチルバニリン+ ラズベリーケトン	2.6	1.1
	前駆体 例 12	3.2	2.0
	ベンズアルデヒド + ラズベリーケトン	1.2	0.5
	前駆体 例 11	2.5	2.4
	オレンジークリスト + 2-メチルウンデカナール	3.2	1.0
	前駆体 例 16.3	1.8	2.4
	ヘリオトロピン + リリアル	2.8	1.2
	前駆体 例 18.3	2.4	2.0

【誤訳訂正 3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 1 3 0

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 1 3 0】

上記表 2 において示される結果から、式 (I) で表される化合物は、乾燥生地上で、自由な状態のアルデヒド / ケトンと比較してより高い匂いスコアを示し、これにより、所望の制御された放出効果を実証した。生地については、5 日後に追加の評価を行ったものもあり、本発明の化合物で選択したタオルは、なお知覚可能な匂いを示した一方で、自由な状態のアルデヒド / ケトンで洗濯したものは、通常の無臭であった。

【誤訳訂正 4】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 1 3 1

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0131】

例26：柔軟剤における適用

12%のester-quatタイプカチオン性界面活性剤、Rewoquat WE18を含有する、非フレグランス柔軟剤に、2% w t / w t の、式(I)で表される化合物または対応する自由な状態のアルデヒド/ケトンのいずれかを、ジプロピレングリコール(DPG)中の10%溶液として添加した。

【誤訳訂正5】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0133

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0133】

表3：自由な状態のフレグランスおよび該フレグランスを放出する前駆体のフレグランス強度

【表3】

成分： 自由な状態のフレグランス 前駆体	T ₀ での 平均強度	24時間後の 平均強度	7日間後の 平均強度
エチルバニリン	5.5	7.4	--
前駆体 例1	4.9	7.9	--
2,6-ノナジエナール	7.5	2.8	1.0
前駆体 例2.12	6.4	6.4	4.0
ラズベリーケトン	4.9	6.4	--
前駆体 例12	5.8	8.0	--
オレンジークリスト	7.0	3.9	1.0
前駆体 例16.3	3.0	4.0	5.0
エチルバニリン	7.2	7.5	4.0
前駆体 例4.2	5.5	6.8	6.0
フロルヒドラルール	6.4	4.2	--
前駆体 例2.6	3.0	5.3	--
オレンジークリスト	7.0	3.9	1.0
前駆体 例16.2	3.6	7.0	3.5

【誤訳訂正6】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0134

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0134】

式(I)で表される化合物は、乾燥生地上で、自由な状態のアルデヒド/ケトンと比較してより高い匂いスコアを示し、これにより、所望の制御された放出効果を実証した。さらに、タオルによっては、7日後再評価を行ったものもあり、フレグランス強度のさらなる増加が、それらのうちのいくつかについて認められた。

【誤訳訂正 7】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 1 3 5

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 1 3 5】

例 2 7：粉末洗剤における適用

非フレグランス漂白洗剤粉末基材に、0.1% w t / w t の、式 (I) で表される化合物または対応する自由な状態のフレグランスであるアルデヒド/ケトンのいずれかを、D P G 中の 1 0 % 溶液として添加した。サンプルを、3 7 で 1 ヶ月間保存した。

評価のための 4 枚のコットンテリートオルを含む布の混合投入物 (合計 2.5 k g) を、標準フロントローディング洗濯機中で、上記で調製した粉末洗剤基材 (9 0 g) を使用して洗濯した。洗濯サイクルを、4 0 で行い、その後 2 回の冷リンスサイクルおよび高速回転を行った。洗濯したタオルを、タンブル乾燥後および室温での 2 4 h ライン乾燥後に、フレグランス強度について、5 人の熟練した評価者のパネルにより評価した。強度を、以下の基準により示した：0 (無臭) ~ 1 0 (極めて強い) 。結果を、以下の表 4 に示す。

【誤訳訂正 8】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 1 3 6

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 1 3 6】

表 4：自由な状態のフレグランスおよび該フレグランスを放出する前駆体のフレグランス強度

【表 4】

成分： 自由な状態のフレグランス 前駆体	平均強度			
	ランブル乾燥		ライン乾燥	
	24 h	7d	24 h	7 d
エチルバニリン	3.0	1.3	1.5	1.3
前駆体 例 3	7.0	4.3	6.0	4.0
エチルバニリン + ラズベリーケトン	1.0	1.3	2.3	0.8
前駆体 例 12	5.3	3.0	6.0	4.0

【誤訳訂正 9】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 1 3 7

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 1 3 7】

本発明の化合物は、乾燥生地上で、自由な状態のアルデヒド/ケトンと比較して、2 4 時間後および 1 週間後のそれぞれについて、より高い匂いスコアを示し、これにより、所望の制御された放出効果を実証した。原材料のほぼ全ての性能が、保存により失われる一方で、式 (I) で表される化合物は、その性能のレベルを広く維持した。